

# 吉野川市教育委員会会議録

招集年月日 令和元年10月30日  
招集の場所 吉野川市役所東館3階 会議室  
開閉会日時 開会 令和元年10月30日 午前11時00分  
閉会 令和元年10月30日 午後00時31分

出席委員 教 育 長 石川 邦彦  
委 員 川村 徳子 委 員 鹿兒島康江  
委 員 野田 賢 委 員 栗原奈麻美  
委 員 谷田 憲二

出席職員 副 教 育 長 橋川 寛司 副 教 育 長 住友 真人  
理 事 松原 勲 教育総務課長 植田千恵美  
学校教育課長 浅山 直慰

## 報告事項

- (1) 令和元年度全国学力学習状況調査の結果概要について
- (2) 令和元年度上半期後援等申請について
- (3) 令和元年度教育委員会教育委員視察研修報告について

## 教育長報告

## その他

## 会議の経過

- 石川教育長 ただいまから、吉野川市定例教育委員会を開会します。  
委員5名が出席されており定足数に達しています。  
前回の会議録の承認をお願いします。(前回会議録署名委員承認)  
今回の会議録署名委員に、鹿兒島康江委員、栗原奈麻美委員を指名。  
それでは、報告事項に入ります。報告事項第1号「令和元年度全国学力学習状況調査の結果概要について」事務局より説明をお願いします。
- 住友副教育長 失礼します。本年度の全国学力学習状況調査の結果概要について、報告をさせていただきます。お手元に資料の方を配布させていただいております。  
それでは、資料に沿って説明させていただきます。小学校6年生、中学校3年生全員を対象に4月に実施いたしました2019年度全国学力学習状況調査の結果が7月31日に文部科学省から公表されました。翌8月1日には広くマスコミに取り上げられたところがございます。このことについては、マスコミで報道されておりますが、徳島県の総合順位につきましては、小学校6年生が35位、前年度は40位でした。中学校3年生が30位、前年度は12位でした、という状況が新聞等では報道されております。  
本市におきましては学力向上の取組成果がでてきている中、正答率が全国平均・県平均を上回ったものもありましたが、平均を下回る結果となったものもあり、今後の課題も見えてきております。  
吉野川市教育委員会といたしましては、昨年度同様、分析結果を調査の結果、概要ということで公表して参りたいと考えております。公表にあたりましては、調査結果の点数や学校の順位の公表は学校間の過度な競争をあおることにつながる可能性があったり、正答率の数値については在籍の児童生徒数や学校規模でも変わってくるため、公表いたしません。公表の方法につきましては、本市の全体的な状況や傾向、今後の取組等についてホームページを活用して参りたいと考えております。  
それでは、全国学力学習状況調査における本市の結果概要について、資料を元にご説明、ご報告をいたします。

まず1ページをご覧ください。1のはじめについてですが、ここでは調査結果概要を通して学力や生活の特徴的な傾向を共有し、教育課題の改善、学力向上を目指していきたいということを述べております。2の調査の概要のところですが、ここでは調査目的、調査対象、調査内容、調査日時を記しております。今年度は国語と算数、数学と英語が教科に関する調査の中で行われております。本年度の調査の特徴として、A問題B問題の区別がなくなり、昨年度はA問題B問題ということで、知識と活用の問題に分かれておりました。それがなくなり、知識と活用を一体的に問う調査問題となっております。また、中学校で英語調査が導入をされております。例年同様、質問紙調査の中で学習意欲や学習環境等児童生徒に対する調査と学校に対する調査が行われております。

それでは、2ページをご覧ください。3の全国学力学習状況調査の分析結果についてです。まず、(1)教科に関する調査結果についてです。小学校国語では全体の正答率が全国平均正答率をやや下回っております。小学校算数では全体の正答率が全国平均正答率を、これも下回っております。この表現の基準として、1ポイント未満の差を「同程度」という表現で、1ポイントから2ポイントまでを「やや」という表現で、2ポイントを超えるものを「上回る」または「下回る」としてしております。これは昨年度と同様の表現の仕方です。その2ページの下に表をつけさせていただいておりますので、それを参考にしていただけたらと思います。

従いまして、総合的に本市の小学校の状況は全国平均より下回っていると考えられると思っております。

次に、下段に示しました中学校の教科に関する調査結果についてです。中学校国語では全体の正答率が全国平均正答率と同程度です。中学校数学においては全体の正答率が全国平均正答率をやや下回っております。英語では全体の正答率が全国平均正答率を上回っています。この結果から総合的に本市中学校の状況は、全国平均と同程度であると考えられます。

続きまして、3ページ4ページの(2)設問別の主な集計結果についてです。3ページに小学校、4ページに中学校を掲載しております。ここで、身につけていることというのは、本市児童生徒の全体的に正答率が高い、例えば全国平均よりも高いものであるとか、正答率が80%前後の高い正答率のものを載せております。また、身につけさせたいことは、同様に正答率が低いものや全国平均よりも低いものを載せており、各学校が自校と比べて分析をする参考にしてもらいたいと考え、このようなまとめ方しております。提示項目につきましては、設問の趣旨や学力的な狙いを元に表現しております。それでは5ページからの質問紙による調査の結果についてご説明いたします。ここでも小中学校別に望ましい傾向が現れているものと、課題となる傾向があると考えられるものをあげております。今回の質問紙調査の主に学習環境と生活に関する調査の項目ごとにデータを分析する形としております。次の4項目に分類されております。基本的な生活習慣等に関する質問、規範意識、自己有用感等に学習習慣等に関する質問、地域や社会に関わる活動に関する質問となっております。小学校から説明をさせていただきます。5ページから9ページにかけて掲載をしております。5ページの基本的な生活習慣等に関する質問では、朝食を食べているかと同じくらいの時刻に寝て起きていますかに昨年同様課題が見られます。毎日の基本的な生活習慣を確立することが大切だと考えておりますので、児童はもとより家庭への啓発活動等の取組が重要であると考えております。6ページの規範意識、自己有用感等については、昨年度と比較いたしますと、やや肯定的な回答が減少しております。今後、生活や学習場面で互いのよいところを見つけ認め合っていくことが大切です。学校におきましても、今まで以上に自己有用感や、自己肯定感を意識した指導を推進していく必要があると考えます。7ページの学習習慣等につきましては、概ね望ましい傾向にあります。今後家庭学習の時間を長くしていくことが望まれます。読書につきましては、全くしないと回答した児童の割合が低かったのですが、30分未満の児童の割合が多く、読書ができているとは言い切れません。自分の時間をうまく活用して適切な読書の時間を確保していくことが大切です。8ページの主体的対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況等に関する項目では、概ね望ましい傾向にあり、授業改善が徐々に進んできているのではないかと考えられます。9ページの地域や社会に関わる活動の状況等に関する項目では、項目につきましても概ね望ましい傾向にあります。これからは地域や社会から学んだことをどのよ

うに発信していくかが大切です。地域の行事やボランティア活動に関心がもてるような教育活動の工夫や地域との連携強化等が重要であると考えております。

つづいて中学校の説明させていただきます。10ページから14ページに掲載しております。

10ページの基本的生活習慣等に関する項目では、小学校と同じように朝食を食べているかと同じくらいの時刻に寝て起きていますかに、課題がみられます。毎日の基本的生活習慣を確立することが、大切だと考えておりますので、これも小学校と同様に生徒はもとより家庭への啓発活動等の取組をさらに進めていくことが必要であると考えております。

11ページの規範意識・自己有用感等につきましては、規範意識については概ね望ましい傾向が現れていますが、自己有用感については褒めて伸ばす指導を今後も継続・深化していく必要があるといえます。いじめにつきましては、学校での細やかな指導成果もあり、よい傾向がみられます。

12ページの学習習慣等につきましては、概ね望ましい傾向にあります。今後2時間以上の家庭学習ができるように、習慣づけていくことが望まれます。読書につきましては、小学校の結果と同様に、全く読書をしないと回答した生徒の割合は低かったのですが、30分未満の割合の生徒が多く、十分に読書ができているとは言い切れません。自分の時間をうまく活用し図書館等も利用しながら適切な読書の時間を確保していくことが大切です。

13ページの主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況等に関する項目では、授業で学んだことを他の学習に生かしている、自分の考えを深めたり広めたりしている。授業でもっとICTを活用したいと回答している生徒の割合が全国平均よりは低くなっていることから、主体的に学ぶ態度の育成が重要であると考えられます。今後、主体的・対話的で深い学びの実現に向けてさらなる授業改善に取り組んでいく必要があります。

14ページの地域や社会に関わる活動状況等に関する項目でも、概ね望ましい傾向にあります。今すんでいる地域の行事に参加していると回答した生徒の割合が全国平均より下回っています。より時間を活用して地域の行事に積極的に参加し、自分の住んでいる地域や社会の仕組みについて学んだり、多様な人々と交流していくことが必要だと考えています。地域の行事やボランティア活動に関心がもてるような教育活動の工夫や地域との連携強化等が必要であると考えております。

こうした結果内容を通して学校や保護者の方に参考にしていただけたらと思っております。

そして15ページには本市の学力向上の取組についてお示ししてあります。①から⑨までの取組については昨年度と同様となっております。

最後にこの本資料の公表方法と公表時期につきましては、申し上げます。公表方法は冒頭で申し上げましたが、昨年同様市のホームページの教育委員会のところと、市内各小・中学校のホームページに掲載していただくこととします。この方法により、学校においては、この資料と自校の分析結果報告を活用して保護者に周知し、理解を深めていただくなど学校と家庭が連携して子どもたちの学力向上に取り組んでいけるようになればと考えております。また、公表時期につきましては、次の12月議会の文教厚生常任委員会での報告を終えてから公表したいと考えております。定例教育委員会におきまして皆様からご指摘のあったこと、ご検討いただきましたことを踏まえて、全国学力学習状況調査の結果概要についての公表資料としたいと考えております。以上でこの件につきましてはの説明といたします。どうぞよろしく願いいたします。最後に、この資料につきましては、先ほど申しましたが文教厚生常任委員会での報告を経て、吉野川市のホームページ、各学校のホームページで公表する予定としておりますので、それまでは未公表ということで取り扱いにつきましてはくれぐれもご注意をお願いいたします。以上です。

石川教育長

ただいまの報告の件で、何か質問等ございませんか。ご意見でも結構です。

委員

昨日も学校訪問をして、中学校に特に学力向上ということでいろいろな手立てを言われ

て。私も担当意見等を言わせていただいたんですけど。学校訪問する中で、落ち着いた学習ができてい学校はほとんどで、いい状況にあるのかなあと。しかし、この結果を見ると、まだまだだなあと。前回の福井県の研修を見れば、やっぱり主体性、子ども自身の主体的に学ぶ力という大分養っていかないと、学力をさらにアップするのは難しいのかなと。頑張っているように思ってますけど、まだまだ、こどもの学力、主体性をつけていくべきなのかなあと思いました。

それと、昨日もある方からちょっと意見をいただいたんですけど、子どもの保育園のことで。幼稚園教育の教育というのが、ちょっと、教育内容が心配されているなあ、と。保育で幼稚園教育が弱まっていつているのではないかと、恐れを抱いているというか。ちょっと強く意見を言われまして。それってどうなんだろうなあ。こども園化していくのはいいのだけれども、広い範囲で幼稚園教育が弱まったりしたら、低学年、小学校、将来どうなのだろうかなと。そういう恐れを持っている方、示唆されている方が幼稚園経験者の方にいらっしやって、昨日大分強く言われました。

委員

中に出てくる言葉でも、規範意識とか主体性がありましたが、言われたように規範というものがあって、主体性が生まれるのか、主体性があるって規範が生まれるのか。自由にしても、大人になればどうにかなってきましますけども、その自由の捉え方とかそういうのも、どこから生まれてきて、どの順番でいくかということが難しいので。自由にさせておけば主体性が出てくる素晴らしい子もいますけど、それもなかなか難しい道筋であるなど。教育というものがどういうものなのか。

それから、うちの子もそうなんですけど、夢とか目標という言葉は、とても大きい言葉で。それこそ「自由にしなさい」という言葉なので。それから主体性を結びつけるのであれば個別支援教育、個別支援計画みたいな、その子の人生設計の中でどういう目標、例えば弁護士、医者になりたいとか、造園業したいとか、小学生から難しいですよ。ですから、ちょっとした短期間の目標を指定して、どういう風に主体的にどんなことを学びたいかということを教えていくという形で、いろんなことを組み合わせていかないと。ぱっと成すには難しいかと。組み立てがしていると。どちらが先にいるかということ。

石川教育長

今、主体性であったり、将来を見据えた教育のあり方で、よく言われているのがキャリア教育ですね。小学校から高校までずっと段階を追ったキャリア教育ができるような計画を国も県もだして。主体性を身につけていこうという動きがありますね。どちらが先かということとは非常に難しいですね。あとで先ほど委員さんがおっしゃられた福井の研修の中でも、そういう子どもたちの動きを見て感じる場所もあるし、保育園だったり、中学校の先生方の話を聞いていても、また違った目線で子どもたちを捉えている、というのがありましたので。またあとで、報告をいただければと思います。

ほかにこのことで、なにかありませんか。

委員

一番最後の15ページに吉野川市学力向上というところで、⑨まであるんですけど、これは今の段階でしていることですか。

住友副教育長

はい。今もこういう形で進めています。

委員

これからもっとこうしていきますとか、これから新たにこういうことをしていきますという部分はないのですか。例えば、この取組をこれまでしていたから結果がこうなったと。なのに、この結果で何か課題がでてきたから、今後はこうしますというのがないのかなと。しています、では変わらないのではないかと。

それと、細かいことかもしれませんが、④などもここまで書かないといけないかなと。もう少し、自己有用感が低いので、将来のことも低い、ここらを家庭と学校と地域が連携してもっと高めていくというような、もっと大きいものを載せるべきではないですか。連携もどのように連携するか。保護者との連携が少ない気がします。

委員

⑤のところにも「保護者の啓発と共に」というようなことも書いてありますし、さらにほかのところでも文言が入ってきてもいいかなあと。

- 委員 今の吉野川市で一括していないのでしょうか。各学校に委ねているのでしょうか。具体的な部分を一回出してみてもいいかなと思いますよ。どこのドリルがいいか、どこの家庭学習の手引きがいいか、ということを出してみてもいいかなと思いますよ。それによって同学校の変化が出ているかというのを検討してみるのもいいかなと思います。
- 委員 昨日もね、森山小学校でも具体的にどこが弱いからこういう風にしていきますとか、一中でも学力向上のためにこういうことで授業改善、学習訓練していますとか説明していただきましたからね。それぞれ学校は学力向上に向けていっている。具体的にどんな取組をしているかをこういう報告でも、ちょっとそういう意見も加味しながら方策として書いていってもいいかなと思いますね。
- 委員 即効くような学習と、3年5年して、将来見据えた教育と。1年ごとになっているので、そここのところがね。
- 住友副教育長 今回出ている数字というのが、吉野川市平均なので、各校によってかなり実態がちがうところもあったり。その実態自体も今年は高いけれども、来年はちょっとというような学校も。今回出しているのは全国学力学習状況調査だけなので、徳島県が独自している4年生5年生向けのステップアップテストなどの成績も比較していくと、なかなか難しいところがあって、一概になかなかいいところもあるのです。ですので、どうしても各校の実態に合わせてという形にはなってしまうので。統一してというのは細かいところは難しいかなと思います。
- 石川教育長 委員さんのおっしゃることもよく分かるのですが、もう一つ言えば、この間の福井の件ではないですが、学力といいながら基本的には生徒指導で。そういうところがほしいということですね。委員さんがさっきおっしゃった「一中は落ち着いた環境」というところも落ち着いた環境があるから学力も向上していきんだらうという意味合いを含んだところがほしいということで。ちょっとまた検討してもらえれば。  
ほかございませんか。あと、ひとつ、教科に関する調査結果ですが、表の中のマイナス1.8とかマイナス3.5とか、これは載せるのですか。
- 住友副教育長 載せません。
- 石川教育長 実は、実際のホームページにするときには、この下の表は載せませんが、マイナスのところは載せませんので。今日はわかりやすいように載せています。そういうこともあって、未公表でお願いします。  
ちなみに昨年までは一番下の上回るなどもついてはいなかったんですが、下の部分は入れてもいいかなと思います。どうですか。
- 住友副教育長 口頭で言うときはいいんですが、ホームページにのってしまうと、「下回る」「やや下回る」「上回る」「やや上回る」どこが基準になっているかが分からないかなということなので今回思い切って出してみましかと。
- 委員 過去にそのような質問は。
- 住友副教育長 ないです。
- 石川教育長 下の表から見て、やや下回っているというのはこの範囲だなというのが今回分かるようにしてみようかなと思うのですが、いかがでしょうか。かまいませんか。県や国の意向からするとこの程度はかまわないかなと。では、そういうことで。  
それと、英語の話すことについてですが、全国の正答率が公表されていないので、比較ができないということ。これも最初はなかったのですが、これも入れておこうと。それぞれの項目ごとにすべての国語も数学も英語も書いてあるのに、話すことだけかな

いので。

あと、なにかございますか。よろしいでしょうか。

それでは、報告事項第2号「令和元年度上半期後援等申請について」事務局より説明をお願いします。

植田教育総務課長 それでは令和元年度上半期後援等申請についてですが、資料をお配りしておりますが、上半期についてはNo.1からNo.37まで出ておりました。そのうち後援申請については34件、共催申請が3件でした。すべて承認しております。詳細については資料をご高覧いただければと思いますので、よろしくお願いたします。以上です。

石川教育長 見ていただけますか。大体例年通りですね。

委員 川島祭りとかは後援の申請はないのですか。

石川教育長 川島祭りは、どちらかといえば商工観光課の関係ですね。

植田教育総務課長 ただ、No.8などのとくしままんなかマルシェとかはそうですね。

石川教育長 それは子どもが出演していますから。上浦の子と東中学校の子と。

橋川副教育長 回覧で回ってきたのでは、子どものダンスとかがあったようですから。そういう関係で教育委員会の後援を申請してきたのでは。

石川教育長 基本的には先方からの申請があつてのことなので。

委員 きっと申請がないのですね。

委員 セントラルホテルとかを使っているもいいのですね。

石川教育長 No.16のも子どもたちのイベントなので。場所は関係ないですね。

委員 これは表彰式なんですね。

委員 映画の上映の基準とかはありますか。「万引き家族」もいい映画なんですけど、題名に引っかかる人もいるかと。

石川教育長 昔は文科省推薦とかもありましたが、今はないですね。

どうですか。よろしいでしょうか。

それではないようですので、報告事項第3号「令和元年度教育委員会教育委員視察研修報告について」事務局より説明をお願いします。

植田教育総務課長 それでは、先ほどからお話には出ておりますが、委員さんは不参加でしたので、報告いたします。

10月10日、11日と福井県に行ってきました。福井県は全国学力テストの結果、小中学校共に調査が始まって以来、12年全国トップクラスを維持しています。そのなかで、丸岡南中学校については独自の取組として、「教科センター方式」や「スクエア制」を採用しております。とばっこ保育園については、子どもが主役で、自然の中でのびのび育てるをモットーとし保育を実施しています。その中学校と保育園を視察してきました。

10月10日、12時半から16時まで、給食も試食し、学校を訪問してきました。坂井市の教育長ならびに教育審議会の市の担当の方まで、おいでくださいました。人口としては9万280人です。吉野川市は4万823人です。小学校が19校で、中学校が5校です。坂井市は、平成18年3月20日に坂井郡の三国町と丸岡町と春江町と坂

井市が合併して、坂井市となったようです。その合併を機に平成18年4月、丸岡南中学校が開校しました。丸岡町は中学校が1校しかなく、1,200人規模と大規模校でしたので、三つの小学校区を分離し、中学校を新設したということです。その当時、生徒数は367名で、現在は365名の14学級です。その当時、新築工事の総事業費が13.5億円、敷地面積は3780.75㎡、校舎棟の延べ床面積が10070㎡となります。鴨島第一中学校と比較すると、生徒数が359名、クラスが15学級で、大体似た規模だと思います。敷地の面積についても33,826㎡、校舎が17,349㎡で、生徒の規模も大きさ的にも似ているところだと思います。コンセプトとしては、「教えやすい環境から学びやすい環境へ」。先ほども言った独自の取組ということから、まずこの学校をどういう風に作るか、というところからスタートしました。平成7年11月に二分化するという検討委員会を立ち上げ、14年6月に建設の基本計画の策定委員会、15年3月に新しい中学校の建設基本計画をというところで、教科センター方式を導入することを決定しました。教科センター方式をするためにどういう学校づくりをしたらいいか、という協議を進めたようです。

配置図をお配りしております。教科センター方式ですが、1階は、数学と理科、2階は社会、国語、英語という風に、教科で教室が配置されております。教科によって移動します。例えば、1階の数学の1-2というところは、ホームベースで、ここにロッカーがあります。教室は、基本的に授業のためだけというようになっています。その向かい側に、数学だったら、数学のメディアセンターというのがあり、数学担当の先生の机を配置して、ミーティングとして、生徒と先生の共有スペースがあります。これが教科センター方式です。色分けしてあるところが縦割りのエリアで、風のスクエアでしたら、各学年の4組が固まっています。それぞれクラスで縦割り行動することが多くなっています。

まず、1階の方の写真を見ていきます。①生徒玄関向かいが鳥のパティオ駐輪場です。これが玄関から入ったところで、中庭が見えています。これが下駄箱で、ヘルメットを入れるところがあります。白いのが外靴で、黒いのが通学靴です。きれいに整頓されていました。これが駐輪場で、雨の時のカッパをつるすスペースも設けられていました。これが玄関口に張ってあった、花鳥風月と分けた縦割りのスクエア方式で、このリーダーというのが生徒の中から選んだリーダーとサブリーダーとなっています。この下に花のスクエアの先生が割り付けられています。

つぎは図で言うと④メディアライブラリー、図書室です。生徒は教室に行くときに必ずこの図書室を通過していくようになっています。ここに入ってきて通り抜け、ここには掲示などを張っていて、最新の雑誌なども置かれていました。この向こうには漫画なども置かれていました。あと、このコーナーに学校の先生がシールを張っているのですが、私が推薦しますという、推薦本を置いてあるコーナーがありました。図書室をでたら、

ここの⑤に外の教室というのがあって、廊下があります。黒板があり、部活動の合間に休憩したりとかにも使われているようです。ここは、壁がコルク素材で掲示も自由に、音も吸収します。保健室の前には、廊下側にこのようなコーナーもありました。つきあたりに支援のクラスがあります。この支援室は外からも入れます。向こう側に風のスクエアという数学のエリアがあります。向かい側にメディアセンターがあり、教室とホームベース、向かい側にメディアセンターがあります。机とロッカーがあり、クラスの掲示があります。教室は、外からもフルオープンで、ガラス張りです。外からも見えるようになっています。

ここが教科担任の数学の先生のデスクになりますが、授業風景も、ここで授業をしていたら、空き時間に別の先生の授業が見ることができ、他の学年は、今こんな勉強しているのだなど、共有もできます。奥はフリースペースで、教材もこのエリアに置かれています。いろんなところがホワイトボードになっていて、マジックで書けたり、掲示できたりとか、空間が有効に活用されていました。こういう仕切りのところにも、1年生2年生3年生の数学の関することが張り出されていて、1年生が3年生の勉強内容が見れたりとか、情報が共有ができるようになっています。教室はシンプルで、ロッカーはホームベースにあるので、教室は机と椅子があるだけという感じです。

ここが数学のエリアなんですが、次が理科の方⑧ですが、これは実験室です。理科の先生のいるところです。壁際にはいろんな掲示があり、奥が実験室です。廊下との壁も、

いろいろなものが掲示できるようになっていました。あと、生徒も先生も自由に見れる教材が飾ってあって、理科に興味を持ちそうな空間が作られています。

これが理科のエリアなんですけど、理科のところを過ぎると、向かいがランチルームになっています。机や椅子はシンプルです。全学年が集まって、一斉に食べます。卒業生が書いてくれたのを飾ったりしています。電気がぶら下がってるんですけど、LEDではないらしく、電球が切れると高所にあるのでなかなか取り替えることができないそうです。建物自体の維持管理に費用がかかると言っていました。来た生徒から、次々並んでとっていきます。席はクラスごとで決まっていますが、用意できた生徒から座って食べ始めて、先生も自由な席で食べています。A食とB食があり、自分で1ヶ月まとめて注文しておきます。ご飯は大中小選べるようでした。終わる時間は決まっており、全員での挨拶が終わったら、終わった人から分別して出て行く、というような流れです。これが食堂の風景です。

ランチルームを出ると、⑩コンピュータ室があります。これがコンピュータ室の様子です。次にコンピュータ室をでると、多目的ホールというのがあります。多目的ホールから、花のパティオ、鳥のパティオと図書室に面しています。多目的ホールは階段も兼ねていて、段差があって、ここに生徒が座ることができ、ちょっとした集会もできます。暗幕を開けると、前が図書室になっていて、ここを閉めると何でも放映できます。走っても、通り抜けても、手すりがあるので滑り降りてくれてもいいようには言っていました。

多目的ホールの階段を上がって2階に行くと共通教室というのがあります。国語のエリアになります。国語のメディアセンター、先生の使うところ、教室です。次が国語を過ぎると、鳥のスクエアの社会となります。社会の方も同じような作りになります。掲示も新聞を張っています。メディアセンターで、地球や資料とか、いろいろあります。ここに見えている棚がそれぞれのメディアセンターもあり、クラスごとに宿題や提出物を置いたりします。宿題は基本多いということをおっしゃっていました。

社会のエリアですが、各教室から⑭に外廊下があるのですが、教室からもできることができます。こんな感じで、距離は130mあります。上から格子のようなものがあるので、直射日光とかもさえぎっています。柔らかい日差しが届くようにという工夫がされていました。ここも走っていただいてもかまいませんとおっしゃっていました。

あと外の風景ですが、ここにビオトープ、テニスコートがあります。⑮のエリアですが、英語のところには1年2年3年と学習ナビのようなものが提示されていて、学習内容が共有できるように掲示されていました。先生がおいででしたが、空き時間にはこのように先生がおいでたりします。

次が家庭科室とか音楽室になります。次はここに⑯アリーナがありますが、アリーナの外壁のところに太陽光パネルがあり、格子みたいになっており、直射日光を入れない工夫が壁にされていました。体育館のステージ側から見た写真になります。ここが掃き出し窓で、風通しがいいようになっています。ステージは全部筒抜けになっていて、光がさして風通しもすごくいい。

⑰職員室で、その横にサロンがありました。これが一応、丸岡南中学校の写真になります。

教科センター方式の狙いは、先も話でありましたが、自主性ということです。自分自らの意思で教室を移動するところ、自主的に学習する力の育成、それから内容と時間を考慮した教材を配置というところで、興味や関心は意欲を喚起すると。学習した内容や作品の掲示をするのは、3年間の学習の見通しを生徒も持てる狙いで。学力向上が真の目的ではなくて、生徒の自主性の向上であったり、生徒指導が真の目的であるということをおっしゃっていました。

この教科センター方式で、学校の教師数は41人です。一中は27人なので、多く配置されています。「県の研究指定校になっているのですか、だから先生を多く配置しているのですか」と聞いたらそうではなく、特に余分に先生は配置されているわけではないとのことでした。自分達独自の取組であるとのことでした。

メディアセンターについては、狙いとしては、図書やプリント資料、情報機器を用意できますので、授業とか休み時間に生徒が使うことができます。教師が常駐しているので生徒の相談に気軽に対応でき、生徒の自主的な学びを援助する場であって、学ぼうと



いう意欲を喚起する場になっていきますということでした。利点としては、生徒同士、先生との出会い、コミュニケーションができる空間をうみだして、学校全体が居心地のいい場所になっているということです。不登校の生徒も全くいませんということでした。不登校になりかけていても、いろんなところで気軽に先生とも相談できるので、事前に回避できているという状況のようでした。

スクエア制については、異学年の集団ということです。縦割りによる活動の狙いというのは、上級生と下級生との距離が近くなる、上級生の自覚が促される、下級生に学校文化が継承されやすい、ということでした。取組として、地域や大学が近くにあるため、大学との連携も重要視されているようです。地域との連携はチャレンジ21という、取組をされているようです。今後については、”なんでもだめだ”ということではなく、常に生徒側にたって考える学校づくりを今後も心がけていきたいということでした。

次が、とぼっこ保育園ですが、人口は14,807人。吉野川市に比べると小さい町になります。幼稚園がなくて、保育園だけ7園あります。17年3月31日に三方町、上中町が合併してできた町で、今現在は児童数が59名、1歳児が7名、2歳児が11名、3歳児が10名、4歳児が22名、5歳児が9名で、職員は12名でした。正規の職員が6名、臨時が1名、4時以降のパートの人が5名ということでした。

あとは写真を見ていこうと思いますが、これが外から見た写真で、田舎にあるのですが、子どもたちが遊んでいました。取組としては自然の中で育てるということです。

ここに鉄棒があるので、鉄棒と砂場、築山があるので、後は特に遊具も道具もないので、こどもたちは木のようなもらってきた廃材みたいなものを使って遊んでいます。道具としては、竹を割ったようなものも道具にしています。自分で考えて遊んでいます。朝、9時に来たら12時まで外遊びということで、こういう風に自由に遊んでいます。これは木で遊んでいます。ここはベッドにして、布団にして遊んでいました。竹の上を渡ってみたり、車を作ったり、築山の向こうでは部屋みたいにしていました。あと、木の棒を持って鉄砲で撃ち合いをしています。それから、ここは木を持って築山の向こうに運んでいます。バケツの底の泥を削っていたり、いろんなところで遊んでいて、ここで木で遊んでいるのは、去年の台風で倒れた木です。このように自然のままに遊んでいます。ぶら下がったり、のぼったり、いろいろしていました。あとこれは草で作った腕輪をプレゼントしてくれました。

保育室の中は至ってシンプルです。ロッカーがあって、机はあったようですが、ピアノもなければ遊び道具も全くない感じです。外遊びしてどろどろになったらシャワーを浴びて、洗濯機があり、奥にトイレがあるということです。このように子どもが主役で、のびのび育っているということです。

こういう保育園にしようと思ったきっかけは、かなり遡るんですけど、50年くらい前から絵の研究実践に取り組んでいたようですが、なかなかいい絵が生まれないので、自然とのかかわりを深めよう、ということからの取組だったようです。

保育士のああしなさいこうしなさいという保育の指導方法を見直して、それをやめようと思ったようです。保育士の意識の改革というの、かなり苦勞されたようです。子どもが自発的に遊んで、遊びによって獲得した生活力が、優しい心をそだてるということ、先生達も実感されているようです。保護者には、保育園に行ったら何も歌を歌ったり、お絵かきしたりをしないので、なかなか理解を得られなかったようです。ちゃんと幼児教育をしてくれ、という声があったようです。

しかし、地道に園では「こうだったんですよ」「自分で発見して見つけました」というような日々の園での子どもの様子を伝えて、子どもの成長を共有しながら共感してもらえるように実践していき、今の保育園につながったようです。遊び重視、遊びの中で育てる。子どもの自主性を育てるということで、子どもが自分から思いついたことを子どもが発言する、というような教育を、先生から決して先に言わないように頑張ったようです。五感を使って見つける、広げる、深める、共に遊ぶ、やりたいことをさせながら心と体を育てるということです。

レイチェルカーソンという方の言葉で「知ることは感じることの半分も重要ではない」と。この言葉をモットーにしているということでした。保育士は常に状況を見極めて、子どもの心の動きを待つということでした。こういうポスターのような大きなものを作っています。

福井県の取組として、各市と町の保育園の取組を報告する場が年に1回設けられて、各保育園で代表で市・町のアドバイザーという人が作って、年に1回発表をして、自分の園の取組を報告しているようでした。大学とも連携したり、保育教育の向上に努めているということです。今後については、子どもの成長を願ってのびのび自然の中で育てるというスタイルを保ちながら、この保育園の保育士のスキルを高めると共に、遊びの中の学びとつながる保育現場の革新を発信していきたいとおっしゃってました。

2日間の独自の取組を視察してきて、何か吉野川市に取り組むことができないかなと、車の中でもお話ししながら帰ってきました。以上、報告になります。これで終わります。

石川教育長 報告がありました、なにかありませんか。

委員 さっき言われてた意見を言いますけども、そういう方が保育の流れというものを実際自分の目で見てもらって。自然の中で、集団で、自ら学ぶという力をつけていくことこそ、学力向上につながっていくのかなと感じていまして。幼児教育ではなくて見直して、実際そういう目で子どもたちをとらえていかなければ。自ら学ぶ力、学力向上につながっていくんだという感覚を感じました。今の映像などを見たらよく分かるのじゃないのかなと。今言ったその方にお伝えしていこうと思っています。

委員 でも、幼稚園は30年くらい前からこういう形になっていますよね。自由保育で。保育所と一体になったから幼稚園教育がないって反対に勘違いされるのかもですね。教室なんです、レイチェルカーソンとかヘミングウェイとか。アインシュタインとか。共通教室で「しげはる」とか「せつ」とか、先生の名前なのかと。面白いなど。

石川教育長 有名な人ですかね。

委員 「たけし」とか。マザーテレサとか、担任の先生が女の方なのかと。面白いですね。それと職員室にも男子女子と更衣室があるのだなど。

石川教育長 そうですね。先生方にも自主性でないけど、サロンとかがあって。この学校は教育長も含めて、子どもたち、先生に自発性を重要視している感じがあって、そのかわり宿題はたくさん出すよ、とかね。

子どもたちの発想で学校を変えていく。さっきも言っていましたが、中学校の中間テストとか期末テストの時に、職員室に「入室禁止」という張り紙をしているのですが、禁止とかだめとかいう言葉は使いません、と。例えば、「中間テストの期間です」とすると、自然と子どもたちが考えて入らなくなる、と。そういう方向性に向けていくとおっしゃってました。

委員 規範意識というのもだめとかいうことではなくて。そこが厳しくなるとしめつけみたいな。そういうのと一緒かなと。

石川教育長 そういう生徒指導面の捉え方、取り組み方を元にやってきたら自然と学力も上がっていった、という捉え方してますね。

委員 ただ自由に奔放にさせていたら大変だけれども、いろんな環境を整えて自由にすることはいいですね。すごいですね。行きたかったですね。

石川教育長 とばっこ保育園の方もほんとにフリーで。子どもに遊ばせているようで、先生方が要所所できちっと見ているというか。子どもたちの思いを聞きながら一緒になってやってくる。

委員 意思決定支援という言葉があるんですけど、それですよ。選ばせるというか。

石川教育長 学校訪問行かせていただいたんですけど、保育園の園長さんが、小学校一年生に入学させるために子どもたちを育てているのではない。よりよい大人になっていくための一段階として育てている、というその言葉が大事ななど。

委員 中学校では、授業が丸見えで。先生がどれだけでも見えるし、学べるし。見られると学習しますよね。そこがいいなあと思いました。技術上がるなど。

石川教育長 見られると自然と鍛えられますね。ここの学校での勤務は大変ですね。

委員 縦割り感があって、担任だけじゃなくて、いろんな先生になんでも相談できるという。

委員 学校訪問でもありましたけどね。先生同士で共有しあえるという。

石川教育長 いいですね。それでは、教育長報告いたします。  
 前回の定例教育委員会からですが、小学校では9月29日に無事に9校の運動会が終了することができました。  
 それから、中学校については10月5・6日、晴天の下で新人大会が行われております。あと、10日には教育委員の皆様には先ほどありました県外研修視察、学校訪問していただいて、いろんな場面を見て研修していただけたかな、と感じております。  
 その中で、10月16日の市幼稚園教育研究大会、今年最後になります。鴨島幼稚園と知恵島幼稚園、それだけではとこども園にも働きかけて20名くらい来ていただけたかと。鳴門教育大学の先生を講師に講演してもらおうという研修に行ってきました。  
 そのときの挨拶で、このとぼっこ保育園の取組を紹介させていただきました。あとで、幼稚園の先生が「教育長のおっしゃったことが鳴教大の先生が講演の中でも同じようにおっしゃっていました」と言っていました。「遊びは遊ばせるのではなくて、自分から、自ら遊ぶのが遊びだ」というようなことを先生がおっしゃっていました。確かにそうだなと思いました。  
 17日は市の小学校の陸上記録会で、今年のみですが鳴門で行いました。元気にみんな頑張っていて、いい天気にも恵まれました。スポーツ義足体験授業を高越小学校で、前回紹介させていただきましたが、みんな見ていただけたかと思えます。最後に、市の市長選並びに県議の補欠選があって、皆様ご存じの通り、本日、原井市長が初登庁となりました。  
 来月以降、ここに11月とありますが、11月は特に幼・小・中学校の人権教育研究大会、市P連のつどい、人権教育がそれぞれの場面で行われているというところになります。あと、15日に県の小学校の社会科部会が知恵島小学校を会場として行われます。また機会があれば見ていただければありがたいです。  
 11月も行事等めじろおしの感じです。新しい市政になって、吉野川市教育委員会もまたいろんな意味で変化していくと思えますが、皆様方にご意見いただけたらなと思っています。私の方からは以上でございます。この件について、なにかございませんか。ないようでしたら、この資料について、説明をお願いします。

松原理事 生涯学習の方から3点ほど説明させていただきます。まず文化庁選定歴史の道100選資料がございます。  
 今日の徳島新聞の一面に掲載されていた内容を加え、コピーしております。今回文化庁の選定で歴史の道100選、新たに36件が全国で推薦されました。その中に、四国遍路道というのが含まれております。四国遍路道は、阿波、土佐、伊予、讃岐それぞれの遍路道の内容となっておりますが、本市におきましては、藤井寺から神山焼山寺までの間、12kmあるのですが、ここが含まれております。詳しくはこの新聞等をお読みいただけたらと思えます。この遍路道なんですけど、焼山寺道は今3.34km史跡指定されています。吉野川市では史跡指定されておりませんので今後調査して、史跡指定して行って、将来的には世界遺産登録に向けて取り組んで参ります。今日の徳島新聞に、「百選に入ると道の補修に国が補助します」と書いてありますが、財政的支援はないんですけどね。史跡指定されましたら、国の補助がありますけれど。ちょっと新聞の

内容は違うかなと思いました。

次に市の文化祭、この1日から3日まで開催されます。黄色の分が展示の分で、1日から3日までの間、川島体育館で展示の部というのが行われます。書道から始まりまして、いろんな展示がありますので、またご覧いただければと思います。

11月3日、鴨島公民館、10時から演芸の部のプログラム、それから3ページ目に、コミュニティセンターで12時から始まりますプログラムを載せておりますので、また時間があればお越しいただけたらと思います。

最後に、川内優輝講演会ですが、11月24日にリバーサイドハーフマラソン大会が行われる訳なんですけど、その前日、川内優輝選手が、当初土曜日の夕方くらいにこちらに入るとおっしゃっていましたが、午前中に吉野川市に入れるということで、急遽、山川アメニティセンターで講演会をしてくれるようになりました。これは川内選手と所属契約を結んでいる、あいおいニッセイ同和損保が「マラソンキャラバン」の一環で実施してくれます。なので、費用負担はありません。講演会とかじゃんけん大会とかサイン入りTシャツプレゼントとかあって、またこれも時間があればお越しいただければと思います。以上です。

石川教育長

それでは、次の定例の開催の日程なのですが、11月21日（木）午前10時いかがでしょうか。

では次回の11月21日（木）午前10時から開催ということでいかがでしょうか。

それでは、次回の定例教育委員会は11月21日（木）午前10時から開催ということをお願いいたします。

最後にほかになにかございませんか。それでは以上といたします。